



沼中だより

学校教育目標：「個」・「心」・「力」

12月号

2025年12月10日発行

返子市立沼間中学校

校長 熊谷 啓明

日本の歴史に学び、自分の生き方を考える

10月以降、私は各学年すべてのクラスで道徳の授業を一回ずつ行っています。その中で、一年生の授業では生徒たちに、「皆さんは『日本を紹介してください』と外国の方から言われたとき、どのような話ができるでしょうか？」という問いを投げかけました。また、授業では、ある著名人から伺った「海外の大学生は自国の歴史・文化・宗教・政治、そして将来について語れるが、日本の大学生はこうした話ができない人が多い」という話も紹介しました。私自身、学生時代を振り返ると、確かにテストで点を取ることが中心で、学んだ内容を自分の考えとして語る力は十分ではなかったように感じます。

だからこそ、本校では「知識を覚えるだけで終わらせない学び」を大切にしたいと考えています。

<日本の歴史を学ぶ — 神話に親しむことから>

1年生の道徳では、学習指導要領に示されている「我が国の伝統と文化を尊重し、国を愛する態度」をテーマに授業を行いました。その一つとして、日本最古の歴史書である『古事記』と『日本書紀』に記された「国生み」の神話を、紙芝居を使って紹介しました。

テストのためだけなら、「稗田阿礼（ひえだのあれ）が語り継いだものを太安万侶（おおのやすまろ）が712年にまとめた」程度を覚えていれば十分かもしれません。しかし、それらの物語は1300年以上にわたり日本人に親しまれ、そこに登場する神々のエピソードは、現代の価値観や道徳観にも影響を与えています。

「神話なんか作り話」と片づけてしまうのではなく、先人が大切にしてきた世界観や生き方に触れることが、歴史を自分ごととして学ぶ第一歩です。

<日本はどのような国なのか — 平和への思いを深める>

2年生・3年生には、この夏、私自身が訪れた靖国神社、千鳥ヶ淵戦没者慰霊墓苑、広島市平和記念公園の様子を紹介し、8月6日、9日、15日に込められた意味についてお話ししました。戦争と平和について考えることは、今の社会を理解する上で欠かせない学びです。

また、11月23日の「勤労感謝の日」についても触れました。もともとは一年の収穫に感謝する「新嘗祭（にいなめさい）」に由来する、大切な行事の日です。祝日の背景にある歴史や文化を知ること、日本という国の成り立ちや価値観がより深く見えてきます。

<政治に興味を持つ — 社会をつくる主体として>

3年生は12月17日（水）に「政治的教養を育む授業」として、実際の政治家にインタビューをする学習を行います。「政治とは何か？」という問いに向き合い、自分たちが感じた疑問や考えを直接政治家の方にぶつけることで、政治を“自分と無関係のもの”ではなく、“自分たちの未来を形づくるもの”として捉えてほしいと思っています。将来、有権者になったときには必ず選挙に行き、社会づくりに参加できる人へと成長してほしいと願っています。

<中学卒業後、自分はどのように生きていくのか>

歴史を学び、文化を知り、政治を考えること——これらはすべて、「自分はどのように生きるのか」という問いにつながっています。日本の歩みや、日本人が大切にしてきた価値観を知ることは、自分自身のこれからの生き方を形づくる大きなヒントになります。

皆さん一人ひとりが、学びを通して自分自身と向き合い、「どんな未来をつくりたいのか」「そのために何を選択すべきか」を考えられる中学生であってほしいと願っています。